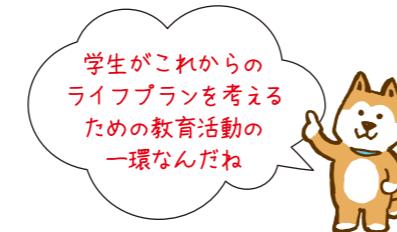


1 インターンシップの基本と重要性

「インターンシップ」とは、
学生が在学中に興味のある仕事や業界など、将来のキャリアに
関連した就業体験を行うことができるプログラムです。

学生はインターンシップに参加することで、専門分野の学習とその関連実務を体験することができます。さらに、これから社会で必要とされる知識や能力を身に付け、自身の将来のキャリアを考える機会にもなります。



日本でのインターンシップの沿革

1900年代初頭にアメリカで開発された「インターンシップ」。2000年頃からは日本でも取り入れられるようになり、今日では学生にとってインターンシップ参加は一般的になっています。



インターンシップの始まり

産学連携による人材育成の観点から、インターンシップがキャリア教育として認識されるようになり、普及が推進。

企業のインターンシップ実施が活発化

広報活動解禁前から、多くの学生への接触と企業認知を目的に、就業体験を伴わない短期間（主に1day）インターンシップを実施する企業が増加。

インターンシッププログラムの再考

採用選考に直結するインターンシップを行わないとの指針が経団連（※）から発表され、就業体験を伴うプログラムが主流になる。

冬のインターンシップが活況

就職活動の後ろ倒しに伴い、夏期休暇に加え、冬期休暇にもインターンシップを、実施する企業が増える傾向に。

キャリア教育としての普及

採用直結型の動き

就業体験プログラムが主流

実施時期の長期化

指針から「5日間以上」という
日数規定がなくなったことにより、
現在では1day インターンシップを
導入する企業が増えているよ

（※）経団連…一般社団法人日本経済団体連合会



2 インターンシップの全国的なトレンド

『就業体験』としてのインターンシップへ

就業体験を伴うインターンシップは、全国的に活発になっています。

本来、就業体験インターンシップは「人材育成」が目的になっており、学生にとっては主に以下のメリットがあります。

- ①自身の学んできたことがどのように生かせるかを理解できる
- ②職業適性や将来設計を考える機会になる
- ③企業の仕事内容だけでなく、社風なども体感できる



就職活動が始まる前に、学生との接点を増やし、自社への興味関心を高めてもらえるインターンシップは、もはやトレンド化しているんだね！

疑似体験型インターンシップを実施する企業が増加

「疑似体験型」とは、グループワークやビジネスゲームなどを通して業務を疑似体験してもらうプログラムです。体験後には社員からフィードバックを行うことで、より学生が学びを高められます。

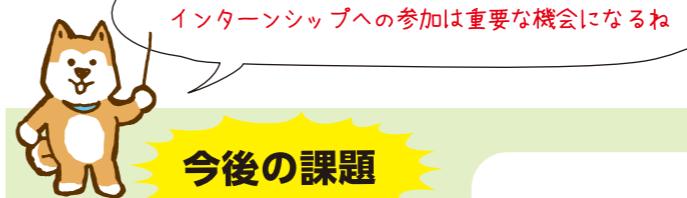
実際に現場で就業してもらう実務体験型インターンシップより企業側の負担も軽減できるため、全国でも実施する企業が増えています。

3 秋田県におけるインターンシップの現状と課題

県内企業のインターンシップ事情

県内では、大学からの要請を受ける形でインターンシップを行う企業が多く、実施件数は他県と比べ、まだ少ない状況です。

また内容についても、現場での簡単な作業や見学にとどまるなど、改善の余地が大きいにあります。



今後の課題

実施企業数の増加

県全体としての実施企業が少なければ、学生も選択肢が少ないと感じてしまい、目を向けてくれません。オール秋田でインターンシップを実施していきましょう。

情報発信の強化

インターンシップを実施していることが学生に届かなければ、参加を検討してもらえません。秋田県就活情報サイト「KocchAke!」への掲載はもちろん、自社HP、就職情報サイトへの掲載やSNS発信など、情報発信を積極的に行っていきましょう。

短期間インターンシップの実施

県内では、学生の負担が大きい長期間での実施が多い現状にあります。多くの学生と出会うため、そして学生に目を向けてもらうためにも、短期間（1dayなど）インターンシップの実施も検討していきましょう。

インターンシップの採用活動における重要性

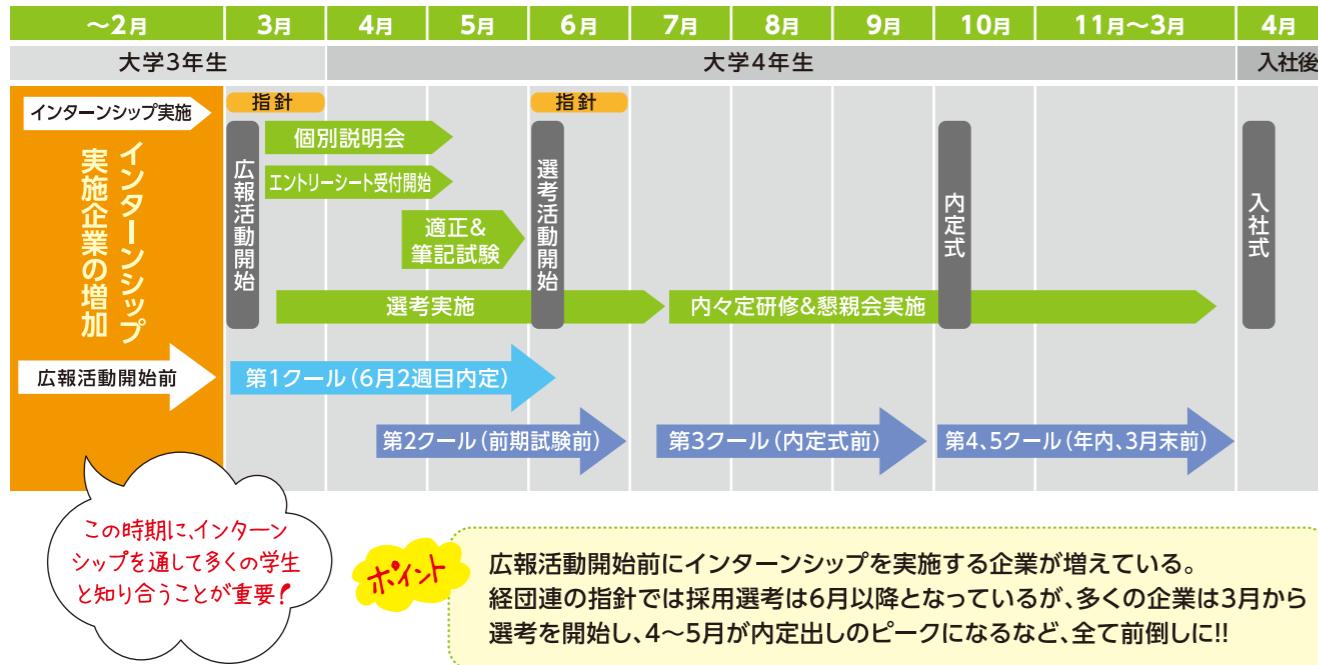
本来インターンシップとは、あくまでも「学生が就業体験を行う場として機能すること」です。

しかしながら、実際には1dayインターンシップを複数エリア・複数回開催するなど、広報活動開始のタイミングで、学生に自社を選択してもらうために活用している企業が増加しており、重要性は高まっています。

新卒採用のスケジュール

就職活動の採用スケジュールは、経団連によって定められています。(※2021年卒学生からは、政府が主導する形に変更予定)

採用スケジュールを把握し、どの時期に何をすべきか、インターンシップをいつ実施するかなど、採用活動までの1年間をスケジューリングすることが必要となります。

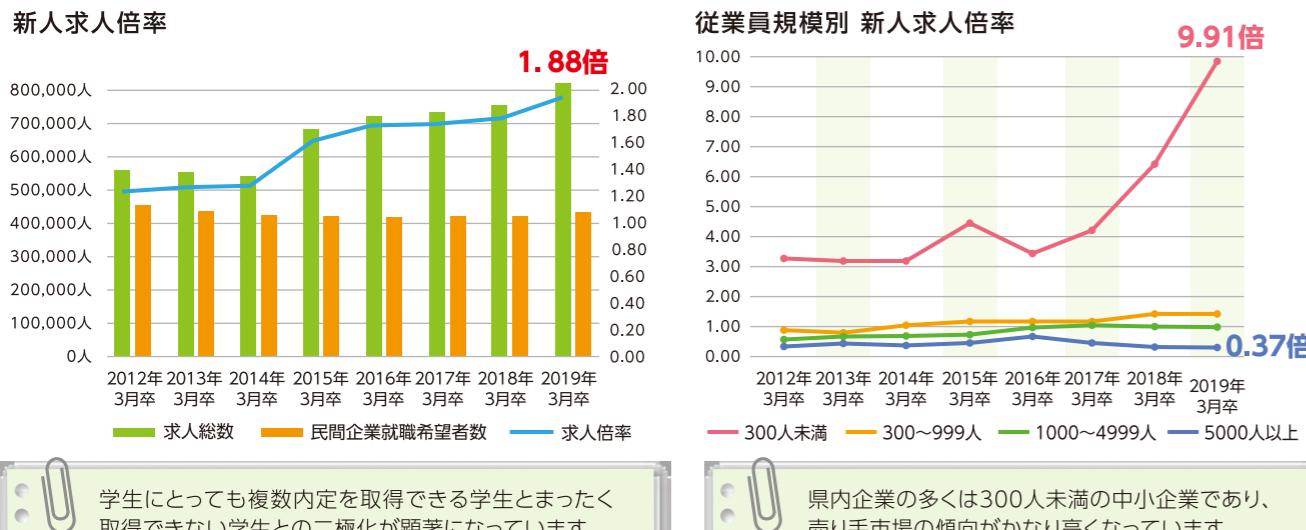


新卒求人倍率の推移

2019年卒学生の有効求人倍率は1.88倍と7年連続上昇しており、売り手市場化が進んでいます。

しかしながら、企業の安定性を評価する学生の大手志向は根強く、大手企業にとってはむしろ買い手市場が続いている。そのため、特に中小企業にとっては、さらに厳しい採用環境になっているといえます。

新人求人倍率



【ポイント】現代は、「空前の売り手市場」！企業は学生に選ばれる側の立場になっている！

【出典:第35回ワークス大卒求人倍率調査(2019年卒)リクルートワークス研究所より】

学生の就職活動先に選んでもらう手段としてのインターンシップ

インターンシップに参加する学生は、もともと参加する企業の業種や職種に対する興味が強く、実際に就職活動の対象企業に選んでくれる可能性も高い傾向があります。

しかし、インターンシップの内容に魅力を感じなかった場合、自社への興味関心が低下し、他社に流れてしまいかねません。

就職活動を直前に控える学生がインターンシップに参加する最大の目的は、実際の仕事を理解することです。座学や講義形式よりも、現場に近い実務を体感できるプログラムが、学生の満足度につながりやすくなります。



インターンシップにより期待される効果

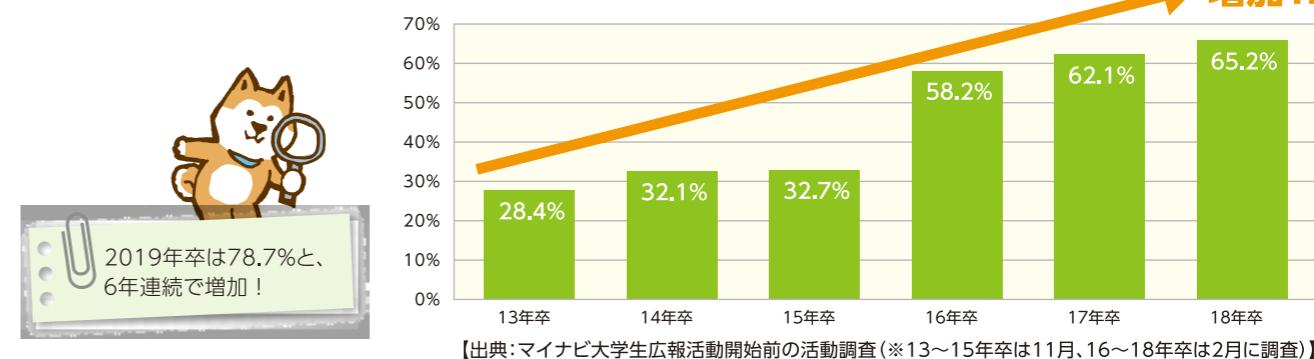
- ① 告知することで、まずは自社の名前を知ってもらえる
- ② 参加してもらうことで、仕事内容だけでなく、社内の雰囲気も感じてもらえる
- ③ 参加者に興味を持てもらうことができれば、採用選考に応募してもらえる

★学生のインターンシップ参加率は年々増加！

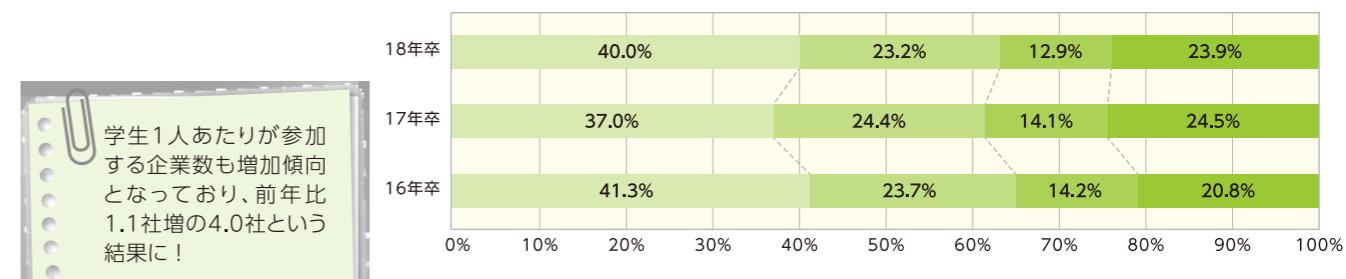
インターンシップへの参加率は年々増加しており、応募や申し込みをした経験がある学生を含めると8割を超えます。さらに、学生の6割は2社以上のインターンシップに参加しています。

就職活動が本格的に始まる前のアクションとして、インターンシップに参加する学生が着実に増えています。

インターンシップ参加率(2017年2月時点)

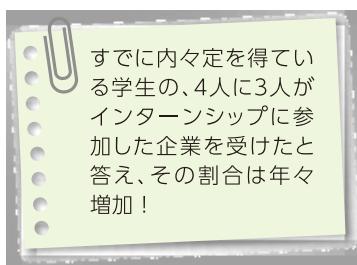


インターンシップ参加社数分布

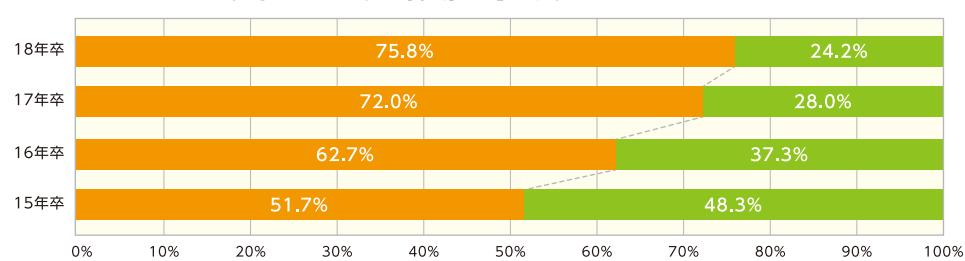


★インターンシップに参加した学生が企業の採用選考を受ける割合は高い！

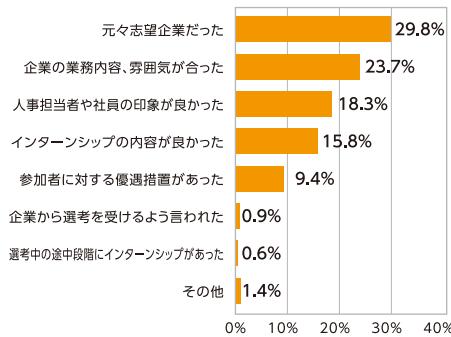
大学からの指導もあり、多くの学生は就職活動開始前に企業のインターンシップに参加することの重要性を理解しています。



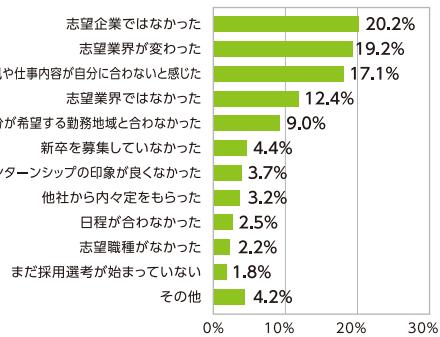
インターンシップに参加した企業の採用選考を受けたか



インターンシップ参加企業の採用選考を受けた理由



インターンシップ参加企業の採用選考を受けなかった理由



【出典：2018年卒マイナビ内定者意識調査】

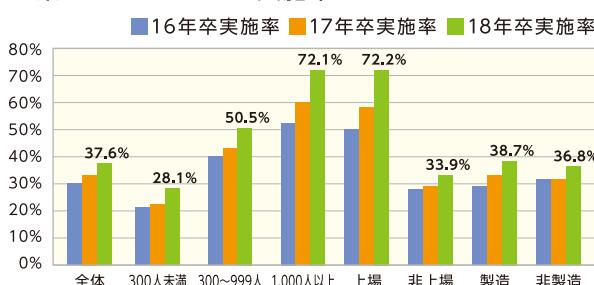


「インターンシップを実施すること=採用活動の開始」つまり、学生の企業選びは、インターンシップから始まっている！

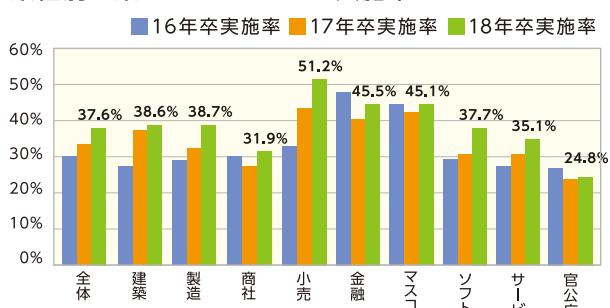
★インターンシップを実施する企業も年々増加！

インターンシップ実施企業は、特に従業員1,000人を超える大手企業および上場企業で大幅に増加しています。

企業インターンシップ実施率



業種別企業インターンシップ実施率



企業が実施しやすい1day
インターンシップの導入が
増加の大きな要因！



知名度や企業理解を
高める必要がある中小
企業こそ、インターン
シップを実施すること
が重要！

ほぼすべての業種でинтер
нативシップ実施比率が増加！
実施はもちろん、同業他社と
の差別化を図るプログラムを
検討していくことが必要。

【出典：2018年卒マイナビ企業採用活動調査】